

標 題 : Reproducibility of an Italian Food Frequency Questionnaire for
Cancer studies : Results for Specific Food Items
癌研究のためのイタリアの食品頻度アンケートの再現性 : 特定食品品目の結果

著 者 : S. Franceschi, et al. (イタリア アピアノ癌センター 疫学部)

掲 載 誌 : Eur. J. Cancer 29A: 2298-2305 (1993)

要 旨 : 乳腺、卵巣、および消化管の癌に関する症例-対照研究で使用した定量的な食品頻度アンケート(FFQ)の再現性を評価するため、イタリア3地域(Pordenone、Genoa および Forli)からのボランティア 452 人(男性 144 人および女性 308 人、年齢の中央値=50 歳)で 3-10 ヶ月(中央値 5.4 ヶ月)の間隔で 2 回実施した 98 品目アンケートの結果を、我々は比較した。

87 食食品目のスピアマン相関係数(r)は 0.35(ゆでた鶏肉または七面鳥肉)から 0.84(ワイン)の範囲であった。

大部分の係数は 0.60 から 0.80 の間で、2 品目だけは 0.40 より下で 5 品目は 0.80 以上であった(平均の $r = 0.59$)。

2 回測定的一致は、アルコールおよび非アルコールの飲料、パン、穀物、一品目、果物およびアンケート各区分のまとめの質問で、おかず、菓子、デザートよりもやや良い傾向であった。

また、調味料中の脂肪の量およびニンニクと塩の摂取などに関する 11 の主観的な質問の再現性も高く見えた。

ボランティアの年齢、性別、教育水準、および 2 回の食事頻度アンケート間の間隔は、2 回測定的一致に対して大きな影響も系統的な影響もなかった。

結論として、本研究は我々のアンケートの高水準の再現性を示した、そして本研究は各種食品品目の説明を改善するために重要なヒントを提供した。
